

【配付資料一覧】

1. 東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会 第5回会議次第
2. 東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会 席次表
3. 東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会 委員名簿
4. 議事関係
  - 資料1 『中里貝塚 保存活用計画書』の目次構成案と各回の委員会の主な検討箇所
  - 資料2 史跡中里貝塚の本質的価値の再検討
  - 資料3 保存・活用に向けた基本方針（大綱）
  - 資料4 国史跡中里貝塚保存活用計画策定委員会 かわら版 第1号
  - 資料5 保存活用計画策定のスケジュール（案）
  - 資料6 ワーキンググループの進捗報告
5. お知らせチラシ 貝塚史跡整備の視察について

東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会  
第5回会議次第

平成30年9月21日(金)  
北区飛鳥山博物館 講堂

1. 開会
2. 教育委員会挨拶
3. 議題
  - (1) 計画書構成案について <資料1>
  - (2) 本質的価値ほかの再検討 <資料2>
  - (3) 保存活用の基本的な指針(大綱) <資料3>
4. 報告
  - (1) 中里貝塚委員会だより(かわら版)の発行 <資料4>
  - (2) 地元勉強会等の予定(8/5勉強会実施) <資料5>
  - (3) ワーキンググループの進捗報告(7/30、9/13) <資料6>
5. その他
  - 次回委員会 平成30年11月 北区飛鳥山博物館講堂
6. 閉会

委員会席次

〔博物館講堂〕

《委員会》

石川副委員長      阿部委員長

吉村委員			
山口委員			
《オブザーバー》 野木文部科学 技官(欠)			
伊藤管理課統 括課長代理			

《区関係理事者》

松本委員代理 議波 様	野田企画主査
山田委員	雲出広報課長(欠)
	馬場観光振興 担当副参事
堀江委員	丸本都市計画課長(欠)
佐々木委員	山上土木政策主査
	佐野道路公園課長

出入口

《事務局》

鈴木事 業係長	中島	田草川教 育振興部 長	野尻飛 鳥山博 物館長
牛山	安武		

傍  
聴  
席

コンサルタント

壁

# 中里貝塚保存活用計画策定委員会 名簿

平成30年9月

(委員)

※敬称略

氏名	所属名等	
阿部 芳郎	明治大学教授(考古学)	
石川 日出志	明治大学教授(考古学)	
吉村 晶子	千葉工業大学教授(都市計画)	
議波 壽男	昭和町地区自治会連合会監事	松本会長代理
山田 和夫	上中里貝塚町会会長	
堀江 正郎	北区観光ボランティアガイド代表	
佐々木 富美子	公募(北区在住)	
山口 宗彦	区立滝野川第五小学校長	

(オブザーバー)

野木 雄大	文化庁文化財部記念物課文部科学技官	
伊藤 敏行	都教育庁地域教育支援部管理課統括課長代理	

(区関係理事者)

野田 和希	政策経営部企画課主査	企画課長代理
雲出 直子	政策経営部広報課長	
馬場 秀和	地域振興部副参事(観光振興担当)	
丸本 秀昭	まちづくり部都市計画課長	
山上 雅則	土木部土木政策課土木政策主査	土木政策課長代理
佐野 正徳	土木部道路公園課長	

(教育委員会事務局)

田草川 昭夫	教育振興部長	
--------	--------	--

(事務局)

北区飛鳥山博物館

館長 野尻浩行 事業係長 鈴木直人

事業係(学芸員) 中島広顕、牛山英昭、安武由利子

事業係 谷 木綿子

TEL:03(3916)1133 FAX 03(3916)5900

Email: hakubutsukan@city.kita.lg.jp

## 『中里貝塚 保存活用計画書』の目次構成案と各回の委員会の主な検討箇所

## 第1章 中里貝塚の保存活用計画の概要

- (1) 計画策定の沿革
- (2) 計画策定の目的
- (3) 計画の対象範囲
- (4) 委員会の経緯
- (5) 他の計画との関係

## 第2章 史跡中里貝塚の概要

- (1) 史跡の位置・概要
- (2) 史跡指定に至る経緯
- (3) 史跡指定の状況
- (4) 史跡に関わる調査成果
  - 4-1. 自然的調査
  - 4-2. 歴史的調査
  - 4-3. 社会的調査
- (5) 指定地の状況
  - 5-1. 法規制・土地利用状況
  - 5-2. 公有化の経緯
  - 5-3. 史跡周辺の現況

← 第1回委員会(H30.1.19)

## 第3章 中里貝塚の本質的価値

- (1) 史跡の本質的価値
- (2) 本質的価値を構成する諸要素
- (3) その他の諸要素
- (4) 指定地の周辺地域を構成する諸要素

← 第4回委員会(H30.7.20)

## 第4章 現状と課題

- (1) 保存管理の現状・課題
- (2) 活用の現状・課題
- (3) 整備の現状・課題
- (4) 運営・体制の現状・課題

← 第2回委員会(H30.3.9)

← 第3回委員会(H30.5.11)

## 第5章 保存・活用に向けた基本方針（大綱）

- (1) 保存管理の方針
- (2) 活用の方針
- (3) 整備の方針
- (4) 運営・体制の方針

← 第5回委員会(H30.9.21)

## 第6章 保存管理計画

- (1) 保存管理の方向性
- (2) 保存管理の手法
- (3) 現状変更及び保存に影響を及ぼす行為の取扱基準
- (4) 指定地外の諸要素の保存管理の手法
- (5) 追加指定の考え方

## 第7章 活用計画

- (1) 活用の方向性
- (2) 学校教育における活用の手法
- (3) 社会教育における活用の手法
- (4) 地域における活用の手法

## 第8章 整備

- (1) 整備の方向性
- (2) 保存のための整備の手法
- (3) 活用のための整備の手法
- (4) 整備事業のスケジュール

## 第9章 運営・体制の整備

- (1) 運営・体制の方向性
- (2) 運営・体制の手法

## 第10章 施策の実施計画の策定・実施

## 第11章 経過観察

- (1) 経過観察の方向性
- (2) 経過観察の手法

## 史跡中里貝塚の本質的価値の再検討

### (1) 史跡中里貝塚の本質的価値

中里貝塚は、縄文時代中期から後期初頭の海浜部に形成された大型の貝塚である。縄文海進によって形成された奥東京湾から東京湾に臨む南関東一帯には、数多くの貝塚が営まれた。貝塚は立地や出土遺物（食資源の残滓などを含む）の違い、居住地か否かなどによって「ムラ貝塚」と「ハマ貝塚」という類型に区分される。中里貝塚は「ハマ貝塚」を代表する貝塚であり、縄文時代の生産や流通から社会構造や地域的な分業体制などを考える上で不可欠の遺跡である。

都心部に残る貝塚の中里貝塚が有する本質的な価値は、概ね以下の5点に整理することができる。

#### ① 貝類利用に特化した場

中里貝塚で検出された遺構は、貝層の他には木枠付土坑や焚き火址の貝類の剥き身処理に関わるものに限られ、居住施設はみられない。出土遺物は、土器や石器などの人工遺物が少なく、貝類以外の動物遺物は獣骨類が皆無、魚骨もごく微量であった。中里貝塚では狩猟活動は完全に欠落し、漁労活動も採貝以外は極めて低調であった。

このことから、中里貝塚は貝類利用に特化した場であり、活動の限定性が顕著で、「ハマ貝塚」の典型的な特徴を明示している。

#### ② 専門性の高さを物語る貝塚

貝種はマガキとハマグリに限定し、しかも大型個体が選択的に採貝されている。マガキとハマグリは採貝季節が異なり、食材の旬を意識した資源の利用形態が見て取れる。マガキとハマグリの貝肉は干貝に加工されたと推定され、貝殻などの残滓は海岸線に廃棄し、貝層が形成された。また、大型個体の均質的なサイズを維持するため、生産者集団の計画的な資源管理が予測できる。

中里貝塚で組織的に行なわれたマガキとハマグリの干貝加工は、このような専門性の高さを物語っている。

#### ③ 国内最大規模を誇る貝層の分布範囲

中里貝塚の貝層は、東西方向に長さ 700m、幅 100m以上の広い範囲に分布し、貝層の中心部分の層厚は 2.0~4.5mと厚い。帯状に連なる貝層の形状は、「ムラ貝塚」にみられる馬蹄形や環状とは大きく異なる。また、貝層の面積は6万㎡以上と推定され、その総体積は関東地方の最大級とされる東京湾東岸の大型貝塚と比べ、隔絶した規模を有している。その要因は、縄文時代中期中頃から後期初頭にかけて約 800 年間に亘る、継続期間の長さと同規模の大きさによるものである。

このように、中里貝塚の貝層規模は国内で最大規模であり、他に例を見ない。

#### ④ 海浜部の景観を復原できる縄文貝塚

中里貝塚は、縄文時代中期の海岸線に大量のマガキとハマグリを廃棄し続けた結果、干潟を埋め立てて形成された貝塚である。その立地は、海退が進んだ縄文時代中期に、砂堆が発達した田端微高地の北西辺に面している。中里貝塚北側には内湾が広がり、マガキやハマグリが生息する泥質干潟や砂質干潟の水域環境になっていた。

中里貝塚は、各種分析を通じて当時の立地や環境を明らかにすることが可能な、多くの情報を包含する貝塚である。

#### ⑤ 内陸部集落へ供給する拠点となる貝塚

中里貝塚で生産された膨大な量の干貝は、石神井川など武蔵野台地を刻む河川流域の集落遺跡群に供給されたものと考えられる。これら内陸部集落の需要の高まりと軌を一にするように、干貝の生産加工が専門的に行なわれた中里貝塚は、生産と流通の拠点となる貝塚として位置づけられる。このことから、沿岸部の漁労集団と内陸部の狩猟・採集集団は地域的な分業体制を敷き、両者間で食料物資などを交換することで、陸海の多様な資源環境を利用する広域的システムを構築していたと推定できる。

中里貝塚は、東日本に展開した縄文時代という定住化社会において、高度な水産資源の利用形態を象徴的に示す「ハマ貝塚」であり、自給自足を越えた集団間の互惠関係がもたらす縄文社会を考える上でも重要である。

## 中里貝塚の価値の整理

### 第4回委員会の指摘事項

- ・現在の中里貝塚が有する様々な価値を、本質的価値と社会的価値に分けて整理する
- ・社会的価値については、既に定着している価値と潜在的に持っている価値に分けて記述する

中里貝塚は学術的・歴史的な価値（＝本質的価値）に加えて、下記に挙げるような現代社会や地域社会における価値（＝社会的価値）も有する。

### 社会的価値 その1…縄文時代以降、現代までに付加されてきた価値

#### ① 学校教育や地域学習の場としての価値

中里貝塚に関する学校教育や地域学習の機会として、小中学校などの団体見学がある。主に飛鳥山博物館で展示されている剥ぎ取り標本を用いた解説などを実施しているが、現地を訪れる「北区文化財めぐり」等のまちあるきルートや歴史散策コースの一拠点としても利用されている。また、過年度の発掘調査やシンポジウムにおいては、現地説明会などを開催し、実物の貝層を間近で見学することで、史跡を体感する場として活用されている。

#### ② 地域コミュニティの拠点としての価値

暫定整備されている中里貝塚史跡広場では、地元の「中里貝塚史跡広場管理委員会」により清掃等の維持管理が実施されており、広場内の花壇の手入れなども含め、地域コミュニティの交流の場として活用されている。また、史跡広場は近隣の子供たちの遊び場や高齢者の散歩コースとしても定着しており、地域住民が「みんなで使える空間」という認識を持ち、心の拠り所にもなっている。

### 社会的価値 その2…潜在的に持っている価値（→「第4章 現状と課題」に記載予定。）

#### ① まちづくり・地域振興・防災の拠点としての価値

中里貝塚の周辺には、史跡に関連する遺跡や北区を代表する名所旧跡が点在しており、北区の歴史文化を学ぶための一拠点として、積極的な利用が望まれる。また、2ヶ所の史跡指定地は、住宅密集地に位置する数少ないオープンスペースであり、防災面での機能も期待されている。

平成23年3月に発生した東日本大震災の際には、避難場所として指定されていない状況ではあったが、史跡広場に一時的に近隣住民が集まり、お互いに声を掛け合ったという報告もあるため、災害時の一次避難所としての存在意義も高いと思われる。

#### ② 郷土に対する誇りを醸成する核としての価値

中里貝塚をひとつの核として、その歴史的な価値を学ぶことで、自分が住んでいる地域をより深く知ることができ、郷土への愛着心や誇りの醸成に繋がることが期待される。また、地域の人々が中里貝塚の存在を日常的に意識できると、区外の人々に対しても積極的に情報発信することが可能になると考えられる。



## 中里貝塚の構成要素の整理

### 第4回委員会の指摘事項

- ・ 指定地内にある構造物等を全てリストアップし、それぞれの要素に分類する
- ・ これまでの調査で得られた遺構なども含めて、リストアップする
- ・ 上記の分類に基づき、保護すべきものか、移転すべきものか、更新すべきものか明示する
- ・ 指定地外の要素は、貝塚本体を含んだ部分と、より広域（関連集落など）とに分けて考える

・ 基本的に「A. 史跡指定地内」および「B. 史跡指定地外」において、現地に実際に存在するものを中里貝塚の構成要素として分類する。

A. 史 跡 指 定 地 内	①本質的価値を構成する要素	最大厚 4.5m の貝層、木道、土坑、焚き火跡、貝層に打ち込まれた杭、作業空間としての砂堆(木枠付土坑を含む)、波食台地形、地下に埋蔵されているその他の遺構や遺物
	②その他の諸要素	
	②-1. 本質的価値に密接に関わる要素	史跡の保護に有効な要素 史跡標柱、史跡の解説板、境界標
	②-2. それ以外の要素	史跡の保存活用に有効な要素 住宅密集地のオープンスペース、ベンチ、屋外卓、公園灯、金網柵、フェンス扉、分電盤、トイレ、水飲み台、植栽  史跡保護のために調整が必要な要素 公園の看板、町会の掲示板、防球ネット、時計、防災倉庫、防火水槽、資機材庫、ゴミ箱、ブロック敷、集水枡、側溝、植栽(地下遺構に影響を及ぼす恐れのある高木など)
B. 史 跡 指 定 地 外	①本質的価値を構成する要素	最大で長さ 700m、幅 100m に広がる貝層、作業空間としての砂堆、地下に埋蔵されているその他の遺構や遺物
	②本質的価値に準ずる要素	飛鳥山博物館に展示されている貝層の剥ぎ取り標本や出土遺物
	③その他の諸要素	
	③-1. 本質的価値に密接に関わる要素	中里貝塚の当時の姿を理解するうえで重要な要素 中里遺跡(丸木舟、集石遺構など)、高台の集落(七社神社裏貝塚、御殿前遺跡、西ヶ原貝塚、東谷戸遺跡など)、当時の活動の場を想起させる地形(田端微高地、飛鳥山微高地)
③-2. それ以外の要素	史跡保護のために調整が必要な要素 中里貝塚に広がる住宅街、道路、鉄道敷地など	

## 保存・活用に向けた基本方針（大綱）

### 前提条件（上位計画等における位置づけ）

中里貝塚の保存活用は、北区のまちづくりの基本計画である『北区基本計画 2015』を具現化するための1つの施策として位置づけられる。また『北区教育ビジョン 2015』においては、推進計画の中で史跡整備事業について触れている。

#### ◆『北区基本計画 2015』および『北区教育ビジョン 2015』における位置づけ◆

『北区基本計画 2015』

施策 2-3：個性豊かな地域文化の創造（歴史的文化の継承と活用）

→施策の方向：文化財の保護や資料の収集・保存に積極的に努める / 区民の郷土意識を高める

『北区教育ビジョン 2015』

推進計画 119)「史跡のまち・北区」のPR

- ・北区は桐ヶ丘遺跡、十条台遺跡群などの埋蔵文化財包蔵地や史跡中里貝塚などの史跡も多く存在します。AR（拡張現実）を活用して現地で史跡に関する画像や説明を見られることにより史跡を実感できるようにする等、広く「史跡のまち・北区」のPRをしていきます。
- ・現在、中里貝塚は貝層を保存するため地下に埋もれた状態で暫定整備されていますが、史跡広場内においてAR（拡張現実）を活用して貝塚の画像を見せることにより、現地で貝層を実感できるような環境の整備を検討します。

中里貝塚の保存活用においては、上記の関連計画等との整合性を図りながら、中里貝塚の本質的価値を適正に保存・継承し、まちづくりの核としてその価値を顕在化することが必要である。よって、中里貝塚の保存活用の基本方針（大綱）を以下のように設定する。

史跡中里貝塚は、縄文時代中期から後期初頭の海浜部に形成された大型の貝塚であり、縄文時代の生産や流通から社会構造や地域的な分業体制などを考える上で不可欠な遺跡であるとして、平成 12 年 9 月 6 日に国史跡に指定された。最大で 4.5m の厚さの貝層は全国的に見ても希少で、貝層とともに検出された貝処理施設である木枠付土坑などの遺構は、当時の食文化等を知る重要な情報源となっている。

これらの貴重な歴史文化遺産・地域文化遺産は、現代に生きる人々のみならず、将来の人々にとっても大切な遺跡であるため、遺跡が持つ価値を地域の人々に広く周知し、ともに守り、継承していく必要がある。

そのために、第一には地域住民とともに、遺跡の価値を共有し、史跡に対する共通認識を持った上で、それらの情報を適切に発信することで、人々の積極的な保存・活用への参画を目指します。そして、中里貝塚を拠点として子どもから大人までが集い、学び、ふれあう場として活用を図り、地域の絆を深めるための1つの資源として捉えることも重要となる。

史跡の効果的な活用にあたっては、その本質的価値を一般の人にも分かりやすいように示すための環境整備も欠かせないことから、現地で史跡について学んだり、情報を発信したりするための施設整備も検討する。

さらに、史跡の保存活用を円滑に推進していくために、ソフト面・ハード面の運営を支える“人づくり”を段階的に推し進め、持続的な体制構築を図ることとする。

#### (1) 保存管理の方針

国内最大規模を誇る縄文貝塚を守り、伝える

◆史跡の本質的価値を適切に保存し、後世へ確実に継承する。

#### (2) 活用の方針

貝塚を拠点とした縄文時代の社会構造をともに学び、活かす

◆地元住民や来訪者等の史跡に対する理解を深め、協働による史跡の保存活用を目指す。

#### (3) 整備の方針

特徴的なハマ貝塚の価値を感じ、高める

◆史跡の本質的価値を顕在化し、現地で貝層を実感できるような環境整備を目指す。

#### (4) 運営・体制の方針

地域に根ざした史跡と人々を繋ぎ、育てる

◆調査研究の推進や保存管理体制の充実、および関係諸機関との連携や地元参画など、幅広い人材の確保と育成に努め、持続可能な体制づくりを図る。

# 国史跡中里貝塚 保存活用計画策定委員会 かわら版

## 第1号(平成30年9月発行)

中里貝塚の保存・活用・整備に向けた具体的な方向性を話し合う委員会が発足し、計画策定事業が進行中です！

本かわら版は、委員会で話し合われた内容等を昭和町地区自治会連合会管内の皆様にお知らせするため発行するものです。

平成30年1月19日に第1回委員会が開催され、これまでに合計4回の委員会が行われました。国の史跡である“中里貝塚”について、どのような遺跡で、どんな価値があるのか、地域代表の区民の皆さまと専門家、関係団体が一緒になって検討を進めています。また、史跡の保存活用に関する将来像や整備についても、本委員会で協議し、計画書として取りまとめていきます。計画策定事業は、平成31年度末(2020年3月)までを予定しています。

**中里貝塚とは**…国内最大規模の貝層を有する、縄文時代の“水産加工場”です。マガキとハマグリ  
の干貝加工に伴い廃棄された貝殻が、最大4.5mの厚さで堆積し、貝類の剥き身処理に関わる遺構なども発見されている貴重な遺跡です。



【これまでの経過】※第1～4回の概要は、北区飛鳥山博物館のホームページにて公開しています。

### 第1回委員会(平成30年1月19日)

#### 主な議題

- ・委員長、副委員長の選任  
(委員長に阿部芳郎氏[明治大学]、副委員長に石川日出志氏[明治大学]を選任)
- ・計画策定の目的
- ・史跡の『総括報告書』の執筆について
- ・史跡の現状と課題

### 第2回委員会(平成30年3月9日)

#### 主な議題

- ・史跡の現状と課題
- ・史跡の構成要素
- ◇その他
  - ・現地視察  
(中里貝塚史跡広場ほか)



### 第3回委員会(平成30年5月11日)

#### 主な議題

- ・史跡の構成要素と地区区分
- ・保存活用の基本方針
- ◇その他
  - ・史跡の『総括報告書』の刊行について

### 第4回委員会(平成30年7月20日)

#### 主な議題

- ・策定スケジュールの変更について
- ・史跡の本質的価値の再検討
- ◇その他
  - ・史跡周辺の地形模型の製作について

●本委員会は、傍聴いただけます。くわしくは、事務局(北区飛鳥山博物館)までお問い合わせください。

### ＜保存活用計画とは＞

国指定の文化財等について、保存活用の考え方を明確化し、必要な諸手続などを整理して、文化財等の確実な継承を図るために作成する計画です。

お問い合わせ(事務局)

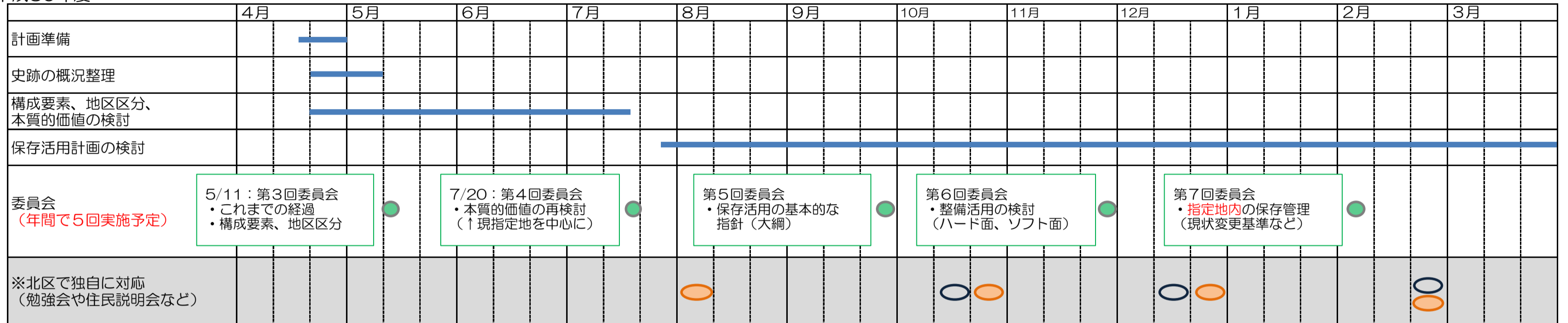
北区飛鳥山博物館

TEL : 03-3916-1133  
http://www.city.kita.tokyo.jp/hakubutsukan/

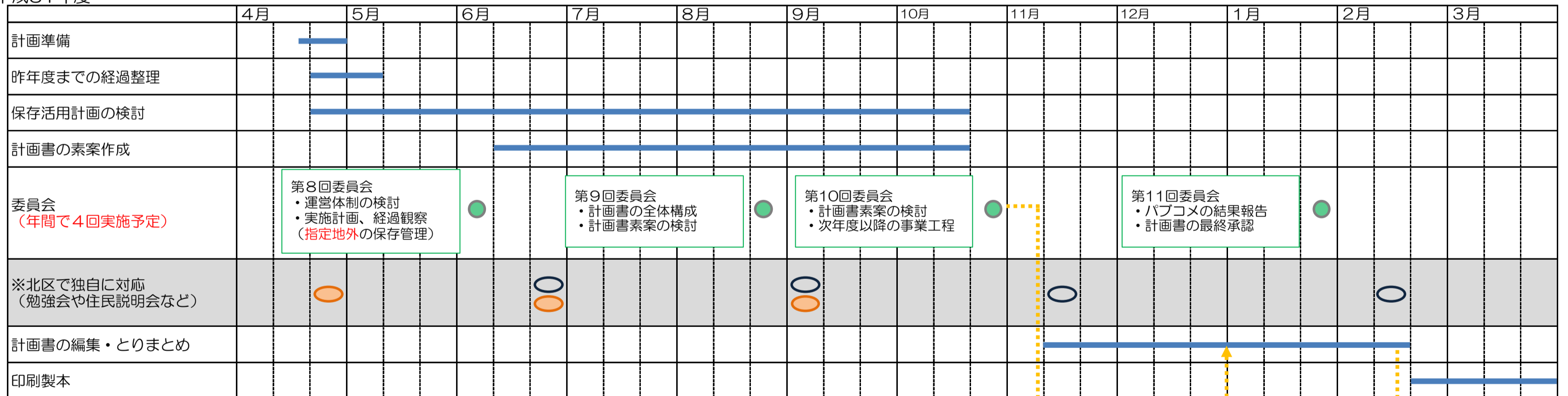


保存活用計画策定のスケジュール（案）

平成30年度



平成31年度



○ かわら版の発行  
昭和町地区自治会連合会管内、昭  
和町地域振興室、昭和町ふれあい館、  
滝野川第五小学校、堀船小学校、堀  
船中学校に回覧、掲示をお願いする

○ 地域住民、地域関係者等との  
・意見交換会  
・勉強会(ワークショップ)  
・施設見学会 等を開催する

↓ 文教子ども委員会  
素案報告

コパ  
メン  
トック

↓ 文教子ども委員会  
パブコメ報告

## ワーキンググループの進捗報告

第4回委員会（7/20）終了後、第5回委員会（9/21）までの期間に、ワーキンググループを2回開催しました。実施概要と主な意見を以下に整理します。

### 第1回ワーキンググループ

**日時**：平成30年7月30日（月）15:00～16:40

**場所**：北区飛鳥山博物館 会議室

#### **主な意見**

史跡の価値を周知するために必要なこと

- ・中里貝塚の最大の特徴である「巨大で分厚い貝層」を実感できるようにするためには、現在の2ヶ所の指定地で、どのような整備活用が必要か、保存活用計画の中で打ち出していく必要がある。
- ・4.5mの貝層を見上げる形での展示や、見下ろす形での展示などで、「日本最大」の貝層を体感できるようになると良い。
- ・史跡指定地の周辺に住む住民が、「自分のまちには、こんなにすごい史跡がある」と誇りに感じてもらえるように、もっと周知していく必要がある。

史跡を活用するために必要なもの

- ・平面図だけだとイメージが湧きにくいので、立体模型があると分かりやすい。
- ・周囲の関連遺跡も含めての検討となると、1000分の1の模型があるとイメージしやすい。
- ・地形模型は、博物館や現地に置いてもらえると、説明の際にとっても役立つと思う。
- ・現地で貝層の広がりを実感してもらう案として、貝層範囲をカラーアスファルト舗装する手法がある。（ただし、道路交通法などの絡みで実現可能かどうかは未確定。）
- ・ガイダンス施設は、現地（指定地もしくは指定地のそば）に必要。
- ・A地点（児童遊園）では、貝捨て場と作業場の遺構が確認されているので、当時の縄文人の活動を追体験できるような活用ができると良い。

地元住民の生活環境との調和

- ・以前から地元住民の意見として挙がっているのは、「史跡広場にトイレがほしい」という点。
- ・地元住民にとっては、騒音や人込みなどの問題で、静かな住環境を脅かされるのでは、という不安が付きものなので、決まったガイドルートや、何名以上の場合はガイドの同行が必要、などのように生活を守る指針も必要。（→滋賀県高島市の「針江生水の郷」の事例）
- ・A地点の児童遊園について、地元の中でも「公園のままが良い」という人と、「史跡として再整備してほしい」という人がいるので、地域の意見をしっかりと聞いて、検討を進める。

## 第2回ワーキンググループ

**日時**：平成30年9月13日（木）13:30～16:30

**場所**：千葉工業大学 1号館 16階 会議室

### **主な意見**

#### 保存活用計画の位置づけ

- ・文化財保護法の改正に伴い、都道府県が平成31年度に策定予定の『文化財保存活用大綱』と、中里貝塚の『保存活用計画』と、内容に齟齬が出ないようにする必要がある。

#### 史跡の価値を伝えるために有効なもの

- ・中里貝塚と高台の集落の位置関係を見ると、ウォーターフロントであることが非常に分かりやすい。
- ・石神井川の流れが変わった後に、漁場と石神井川との間に集落（御殿前遺跡など）が形成された。
- ・石神井川まで入った地形模型があると、当時の変遷をストーリーとして説明しやすい。
- ・模型を使用しながら説明を聞く（座学）→現地を実際に歩く、という見学コースだと、より理解が深まると思う。
- ・弥生の大集落、古代の郡衙、幕府の鷹狩り、江戸の一里塚、古河庭園・・・など、歴史の重層性もこの地域の特色の1つ。

#### 史跡の活用（教育・学習面）

- ・東側の児童遊園（A地点）は、現状を大きく変えられないが、「貝蒸し遺構」が目玉となるので、それを活かしたソフト面の活用ができると良い。例えば、未調査区を区民参加型で「市民発掘」という形で追加調査を継続するなど。
- ・過去の調査で出土した貝のサンプルは、教育委員会で保管しているので、貝の計測分類作業を体験学習として実施してはどうか？

#### 史跡の活用（観光面）

- ・経済的な意味合いだけの観光ではなく、広い意味での“地域開発”の手段としての観光に、中里貝塚を活かせるるととても良い。
- ・史跡周辺の観光イベントとしては、尾久操車場の「ふれあい鉄道フェスティバル」がある。

#### 史跡を活用するために必要なもの

- ・現地で中里貝塚を「体感」するための施設整備は、活用を考えるうえで不可欠だと思う。
- ・上中里駅など、史跡を見下ろせる場所（ニビューポイント）に説明板とARの機能があると良い。
- ・最寄り駅や博物館から中里貝塚まで歩いてくる道中で、楽しめる仕掛けがほしい。

# 中里貝塚保存活用計画策定委員会

## 貝塚史跡整備の視察について

中里貝塚の保存活用計画を策定するにあたり、国指定史跡の貝塚の保存整備の状況を下記の通り視察し、今後の参考にいたしたいと思っております。お忙しいとは存じますがご都合の許される限り、ご参加お待ちしております。なお、日程につきましては庁用車の確保の関係上事務局で決めさせていただきましたこと、ご了承ください。

### 〈日 時〉

10月24日(水) 9:00~16:30(予定)

### 〈視察場所〉

特別史跡加曾利貝塚 千葉県千葉市若葉区桜木8-33-1  
上高津貝塚ふるさと歴史の広場 茨城県土浦市上高津1843

### 〈行 程〉

午前：北区飛鳥山博物館 ⇒庁用車マイクロバス⇒ 特別史跡加曾利貝塚  
午後：特別史跡加曾利貝塚 ⇒庁用車マイクロバス⇒ 上高津貝塚ふるさと歴史の  
広場 ⇒庁用車マイクロバス⇒ 北区飛鳥山博物館

### 〈昼 食〉

幕張パーキングエリア

### 〈集 合〉

- ① 北区飛鳥山博物館正面玄関 8:30
- ② 昭和町地域振興室前 8:45

事務局

北区飛鳥山博物館事業係

担当：鈴木・中島

03-3916-1133